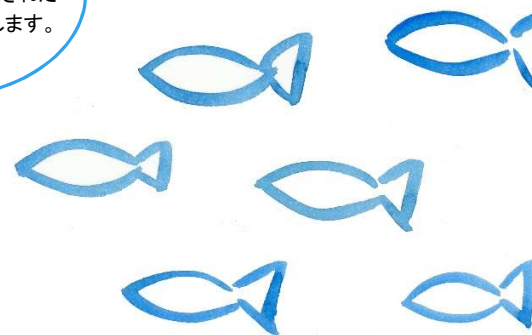


筑後川防災施設

くるめウス

2017年7月1日エドゥケーター講習会が開催地された「くるめウス」を紹介します。



「くるめウス」は、昭和28年の大水害の記録を伝え、水害（洪水）から身を守る治水の大切さや防災・減災、河川環境の保全、河川愛護意識の啓発を目的として、平成15年6月久留米市新合川の筑後川と支川高良川との合流点に開館した「河川情報拠点施設」です。



地域に愛される場所

歴史的展示物も盛りだくさん。地域の方が、自宅に保管していた古い希少な品物を持ち寄ってくれる。とか。運営を任されているNPO法人「筑後川流域連携倶楽部」は、筑後川（福岡、佐賀、熊本、大分の4県を流れる）の流域で活動する上流・中流・下流間の環境団体の交流や連携を促す、18年以上（全体では約30年）の取り組みが評価され、2016年には「日本水大賞」を受賞しています。「地域の人々みんなで作り上げ、地域に愛される場所。」でした。



ジオラマ水槽～縮小版筑後川

施設の中には、いくつかの水槽が設置され、筑後川の魚たちが泳いでいます。

「くるめウス」という名前の由来である「ニッポンパラタナゴ（学名クルメウス）」や、絶滅したと悲しんでいたところ、ある小学校の水槽でみつかった「ヒナモロコ」という希少な魚にも会えます。

うなぎ

泳いでいます。



うなぎ屋さん???

入口につくと、ウィットにとんだ看板がお出迎え。館内はウィットにとんだくるめウス事業部長の川嶋さんが案内してくださいました。

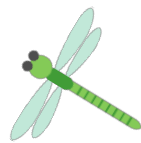
「暴れ川」の記憶

ドアをくぐると「暴れ川」の記憶を示す大きな柱

昭和二十八年六月、西日本では筑後川を始め白川など九州北部を流れる河川がほぼ全て氾濫するという大水害に見舞われました。印象的だったのが、写真に貼られた数々の付箋。展示した写真に見覚えのある来館者が、付箋でその時の記憶をメモして貼っていく、という工夫をしているそうです。リアリティがある展示に、水害の恐ろしさと防災の大切さが強く伝わってきました。



「この日久留米大橋で、人が、牛が、大木が流れてくるのをただただ見ているだけの小6の子供でした。」
(付箋より引用)



都市と自然の融合

隣に「ゆめタウン」という都会的な場所があったかと思うと、その施設のわきに、小さくても深い自然を見つけました。

高良川周辺にはたくさんの生き物が生息しています。くるめウスのイベントに通う子供たちは、ここで魚貝類約30種、昆虫約300種の生き物を見つけたそうです。小さな川も子供にとっては小宇宙。





プロジェクト WET

施設中央からにぎやかな声！

プロジェクト WET in 筑後川は、ファシリテーターの中山さんを中心に大盛況。九州での開催が少ないエデューケーター講習会、九州各地域から参加者が集まりました。



くるめウスを 人材育成の拠点に

「今後、くるめウスでプロジェクト WET 講習会等を定期的で開催して、自然や環境などに関わる人材育成の拠点とし、子どもたちに水の大切さを伝えていきたい。」と、主宰者である筑後川まるごと博物館運営委員会事務局長の鍋田さん。人が集まる、地域に愛される「くるめウス」。こんな施設が日本中に増えるといいですね。



多種多様なイベント開催

くるめウスでは、定期的にイベントを開催しています。お隣には「ゆめタウン」というショッピングモールがあるため、保護者がお買い物中に、子供はイベントに参加。といった活用をしている方も多いとのこと。最強「くるめウス！」



ACCESS

西鉄天神大牟田線 宮の陣駅 徒歩 15分・タクシーで 5分
または、西鉄久留米駅バスセンターより
ゆめタウン行きバス乗車

問い合わせ先

〒839-0865
久留米市新合川 1 丁目 1-3
(百年公園東側) 筑後川防災施設くるめウス
TEL 0942-45-5042 FAX 0942-45-5043